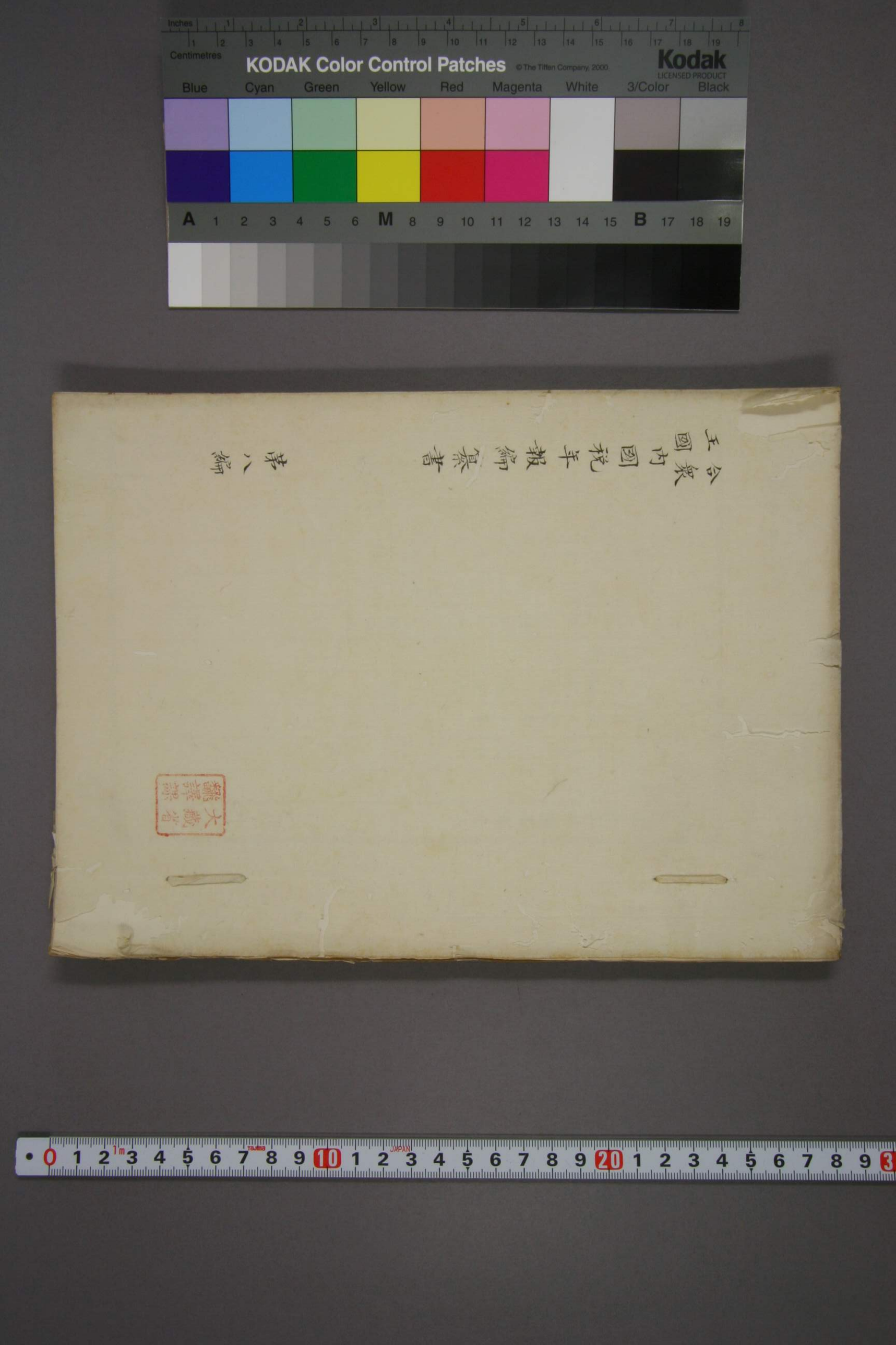

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

合
國衆
内
國
稅
手
報
御
集
書

第
八
編

大阪府立図書館

114
A 1842
8 3

宮内省圖書寮

各衆王國內國稅年報編纂書目次

第八編

地稅雜稅及ヒ所得稅
檢査及ヒ監視ノ事
〔英倫〕課稅及ヒ稅金收入ノ事
所得稅
(イ)及ヒ(ロ)ノ科目ニ於ケル課稅法
(ニ)ノ科目ニ於ケル課稅法
蘇國ノ處法
地稅
雜稅
家稅
僕稅

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

大藏省

馬車税
馬税
犬税
粉髪税
徴蹄税
馬商税

第八編

地税雑税及ト所得税

檢査及ト監視ノ事

地税雑税及ト所得税ノ課賦ヲ監視シ及ト其税金ヲ收入スルノ職務ハ監視官檢査官及ト副檢査官ノ擔任スル所ニシテ別ニ大監視及ト大監視副二名アリ今茲ニ監視官以下ノ員數ヲ掲クル丁左ノ如シ

	英倫	蘇格蘭	愛尔蘭	通計
監視官	一三	五	三	二一
檢査官	二三六	三七	二一	二九四
副檢査官	六〇	一〇	三	七三

大藏省

副檢査官ハ大藏事務長官ノ命スル所ニシテ其職タル競進當選法ノ試驗ヲ經テ始メテ之ニ任ス而シテ其試驗ノ科目ハ書取加減剰除ヨリ分數比例ニ至ルマテノ筭術英語作文地理學及ヒ英國史等ノ數項ニシテ其年齡ハ十九年ヨリ二十五年ニ限ル副檢査官ノ職ニ任セラレテ十二月ヲ閲スルヤ本區ノ檢査官ヲ經由シテ躬ラ檢査官ノ委任狀ヲ得ンヿヲ請ボスルヲ得ヘシ故ニ檢査官ニ於テ其品行及才能ニ就テ滿足ナルヿヲ報セハ大監視ノ前ニ於テ稅法ニ關シテ本案ヨリ送付スル所ノ問題ニ就テ試驗セシメ果シテ其技倆ノ滿足ナルトキハ之ヲ大藏事務長官ニ推薦シテ始メテ委任狀ヲ付與ス

既ニ如斯ク試驗ヲ經テ檢査官ニ進級スト雖モ何レノ區ニ於テカ檢査官ノ缺員アルニ非サレハ本官相當ノ俸給ヲ受クルヲ得ス將タ副檢査官ノ俸給ハ九十磅ニシテ年ニ十磅ヲ增シ以テ百五十磅ニ至ル

英倫ノ檢査官ヲ分テ五等トシ蘇格蘭及ヒ愛尔蘭ヲ分テ四等トス其員數及ヒ俸給等ハ左ニ開列スル所ノ如シ

英倫

	員數	俸給額	增給額	俸給極度
一等檢査官	二一八	四二〇	二〇	五〇〇
二等檢査官	四〇	三五〇	一〇	四〇〇
三等檢査官	五六	三〇〇	一〇	三五〇
四等檢査官	四四	二五〇	一〇	三〇〇
五等檢査官	七〇	二〇〇	一〇	二五〇
通計	二三六			

蘇格蘭

	員數	俸給額	增給額	俸給極度
一等檢査官	八	三八〇	一〇	四三〇
二等檢査官	一〇	三二〇	一〇	三七〇
三等檢査官	一〇	二六〇	一〇	三一〇
四等檢査官	九	二〇〇	一〇	二五〇
通計	三七			

愛尔蘭

	員數
一等檢査官	四
二等檢査官	四
三等檢査官	七
四等檢査官	六
通計	二一

從前檢査官ノ俸給ハ幾分カ課稅ノ額ヲ增多スルニ隨ヒ一磅ニ付若干ノ割合ヲ以テ之ヲ支給セシカ千八百三十五年以降ハ全

ク其法ヲ廢止セリ蓋シ檢査官ノ職制ニ至テハ之ヲ課稅及ヒ稅金收入法ト題スル條目中ニ詳說スヘシト雖モ該官ハ總テ印稅ニ關スル職務ヲ兼スル者タルヿヲ記憶セサル可ラス是レ該稅ト關繫甚タ多キノ故ヲ以テナリ然リ而シテ其第二等以下ニ缺員アルトキハ先輩ヲ以テ之ニ充ツルヲ例ト爲スト雖モ其緊要ナル收稅區ニ於テ第一等ノ檢査官ヲ推擧スルニハ亦タ必シモ前ノ例ニ依ラスシテ數名ノ中ヨリ之ヲ精選拔擢ス

監視官ハ檢査官中最モ其用ニ堪ル者ヲ精選シテ之ニ充テ其職タル管ニ檢査官ノ權域ニ及フノミナラス尚控訴議會ニ參座シ課稅ノ事ヲ檢査シ或ハ檢査官ノ行務ヲ監視ス然リ而シテ監視官ハ寒暑風雨ヲ擇ハス恒ニ合衆王國内ヲ巡回監視セサル可ラサルヲ以テ年齡五十五歲ニ達スル者ハ該官ニ推擧セサルヲ例トス

千八百四十九年印稅案及ヒ地稅國産稅案ヲ合併スルノ前ニ在テ監視官ハ地稅收入ノ事ヲ兼子シタ此年ニ至リテ專ラ之ヲ國産稅務ヲ管掌スル大區ノ總長ニ委任シタリ

大監視ノ俸給ヲ一年八百磅トシ大監視副ノ俸給ヲ七百磅トス其普通監視官ノ俸給ノ如キハ即チ左ニ揭示スル所ノ如シ

英倫		蘇格蘭		愛尔蘭	
	任官初年ノ俸給磅	增給額磅	俸給ノ極度磅	任官初年ノ俸給磅	增給額磅	俸給ノ極度磅
一等監視官	六〇〇	二〇	六五〇	五〇〇	二〇	五五〇
二等監視官	五五〇	二〇	六〇〇	四五〇	一〇	五〇〇

然リ而シテ英倫ニ於テハ一等監視四名二等監視六名ヲ置キ蘇格蘭ニハ一等監視二名二等監視三名愛尔蘭ニハ一等監視一名二等監視二名ヲ置ク

英倫

課税及ト税金收入ノ事

地税及ト雜税ノ賦課及ト税金收入ノ事ヲ掌ル官吏ハ全ク本案ニ関繫係ナキ地方收税委員ノ命スル所ニシテ所得税ノ如キモ亦多クハ此例ニ依テ收入スル者ナリ蓋シ維廉四世及ヒ馬利ノ法律ニ據テ始メテ地税ヲ課スルヤ該法中凡此法令ニ指名スル人々ハ州郡都邑及ヒ其他ノ地ニ於テ本法ヲ施行スル收税ノ吏員タルヘシ云マト記セリ故ニ此時ヨリ昨年ニ至ルマテ地税ノ事ヲ掌ル委員ハ先例ニ倣ヒ議院開設ノ第一會ニ於テ必ス其姓名ヲ法令中ニ特書シテ之ヲ命ス又從前法官ハ自己ノ官權ニ對シテ收税吏員タリシノ例ナキニ非スト雖モ是唯往時ノ法式ヲ斟酌スルニ過キサルノミ而シテ其極ヤ唯收税吏員ノ姓名ノ外又他事ヲ記セサル数百卷ノ法律書アルニ至レリ然ルニ昨年間此收税委員ノ員数ヲ増加セサルヲ得サルニ及テハ稍々簡易ノ法ヲ設ケ凡ソ下院書記官ノ捺印スル職員録ニ載セ且「倫敦ガゼト」新聞紙ヲ以テ公布スル人々ハ收税委員タルヘク而シテ其指名ハ議院ノ法令ヲ以テ命スル者ト同一ノ効力ヲ有スヘシト令セリト雖モ未タ以テ完全ノ域ニ至レリト云フ可ラス何トナレハ新タニ收税吏員一名ヲ命スルニ當リ議院ノ法令ヲ以テセサル可ラサルヤ猶昔日ニ異ナラサレハナリ然リト雖モ實際上ヨリ論スレハ此收税委員ノ推選ハ概子現在地方ニ在勤スル收税委員一固テ成リ該委員ハ志願人ノ姓名録ヲ製シテ之ヲ州廳若クハ府廳ニ送付シ州廳ヨリハ之ニ奥書シテ下院ノ書記官ニ傳達スルヲ例トス然リ而シテ英倫ノ各州ニ於テ地税ノ事ヲ掌ル委員ハ惹尓日三世ノ法令ヲ以テ「フリーホールド」「借地コピーホールド」

亦均シク借地ナリト雖モ專ラ往古ヨリ傳來スル地券ニ從テ借地スル者ヲ指ス或ハ「リースホール」「年限ヲ定メテ借地スル者ヲ云フ蓋シ英國ノ借地法ニ據ルニ家屋ヲ建築スヽ借地ハ九十九年ヲ限リトシ耕作ノ為メニス

ル者ハ三十一年ヲ限リトス此他猶年限ノ長短ナキニ非スト雖
モ概シテ前ニ掲クル所ノモノヲ普通ノ法トス

借地ノ年價百磅以上ヲ有スル者ニ限ル

原来ノ地税法ニ據ルニ州内ノ收税委員ハ躬ラ便宜ナリト思惟スル地ヲ擇ミ村邑鄉市等ノ間ニ分流スヘキヲ命シ斯ノ一タヒ收税區域ヲ分劃シテヨリ今日ニ至ルマテ之ヲ変換スル者甚タ罕ナリト雖モ既ニ千八百三十四年ニ於テハ各州ノ收税委員即チ地税ノ事ヲ掌ル ニ委スルニ其總會議ニ於テ假令ハ某市ヲ甲税區ヨリ移シテ乙税區ノ管轄ニ帰シ或ハ新タニ税區ヲ設ケント欲スル時ハ大蔵事務長官ノ裁可ヲ經テ之ヲ施行スルヲ得ヘキノ權ヲ以テセリ蓋シ收税委員ハ原来特殊ノ地方ヲ除リノ外ハ一州内ノ税務ヲ掌ルカ為メニ命スル所ナリト雖モ實際ニ於テハ唯躬ラ居住スル區内ノ事ヲ管理スルニ過キサルノミ

各税區ノ委員ハ毎年初度ノ總會議ニ於テ必ス書記一名ヲ命セサル可ラス而シテ此書記ハ全ク政府ニ関繫ナキ者ニシテ委員ノ總會議ニ於テスルニ非サレハ漫リニ一年間之ヲ廃黜スルヲ得ス其俸給ハ收税額一磅ニ付若干ノ割合ヲ以テ之ヲ支給スルカ故ニ或ル地方ニ於テハ鎖々タル金額ニシテ其勞ヲ償フニ足ラスト雖モ人口繁殖且殷富ノ地ニ在テハ利益ヲ享有スル甚タ大ナリトス況ンヤ雑税ヲ掌ル委員ノ書記ハ所得税ノ書記ヲ兼ヌルニ於テヲヤ

又收税委員ハ毎年第四月十日前ニ於テ各區内ノ市邑村ニ在勤スヘキ賦税吏二名以上ヲ命シ賦税吏ハ又各市邑村ノ收税吏二名以上ヲ擇テ之ヲ收税委員ニ推薦セサル可ラス故ニ該委員ニ在テハ尚其用フルニ足ルヘキカ否ヲ思量シ其人若シハ他ノ人ヲ命シテ收税吏ト為ス收税吏ハ必ス市邑村ノ住民ニ限ル

收税吏ニ於テ若シ收税金ヲ濫用シ之ヲ納付セサルノ事アレハ

各市邑村ニ在テハ再ヒ課税シテ其額ヲ償フノ責任アリ蓋シ意
尓日第三世ノ法令ヲ以テ收税吏員ニ付與スルニ收税吏ヲ命ス
ルニ當リ本人ヨリ抵當ヲ納メシムルノ權ヲ以テスト雖モ實際
ニ於テハ巨額ノ税金ヲ收ムルノ地方ヲ除クノ外ハ之ヲ施行ス
ルヿ無ク又該地ニ住スル二名ノ納税者或ハ區吏若クハ救育所
長タル賦税吏ノ推薦シテ收税吏トナルヘキ者ヨリ抵當ヲ納メシ
ムヿヲ要ムルモ之ヲ肯セサルトキハ他ノ之ヲ肯スル者ヲ選挙シテ
收税吏タラシムヘキノ條款アリト雖モ此シク之ヲ實際ニ施行
スルハ甚タ罕ナリトス然ルニ千八百五十四年魯西亜戦爭ノ起
ルニ當リ政府ニ於テハ所得税ノ率ヲ倍加シ一方ニ於テハ為メ
ニ大ニ收税吏ノ奸計ヲ絶スニ易カラシメ又一方ニ於テハ再ヒ
課税スルノ益々至難ナルニ至リシカ故ニ本案ニ於テハ地方ノ
收税委員ニテ命スル收税吏ヲシテ抵當ヲ納メシメ若シ之ヲ納

ムルヲ肯セサルトキハ別ニ本案ニ於テ適當ノ收税吏ヲ命スルノ
權ヲ得テ之ヲ施行シ又本案ニ於テ抵當ヲ收メテ命スル所ノ收
税吏カ收税金ヲ濫用スルヿアルモ其金額ニ就テハ敢テ市邑村
ノ責任ニ非サルヿヲ令シタリ
千八百五十六年ニ於テ地税委員ハ大蔵事務長官ノ裁可ヲ經テ
地税雑税所得税法ヲ實施スルノ便益ヲ計リ更ニ收税區内ノ二
市以上ヲ合併スルヲ得ヘキノ權ヲ享有シ又維多利亜第二十二
章ヲ以テ從前唯首府ニ限リ准許スル一市内ニ於テ所得税若ク
ハ雑税ヲ收入スル收税吏二名以上ヲ命スルヲ得ヘキノ權ヲ擴
充シテ之ヲ一般ノ收税委員ニ付與セリト雖モ是レ決シテ地方
ノ市區ニ比類スヘキ者ニ非ス何トナレハ前ノ法令ニ遵テ命ス
ヘキ各收税吏ハ全市内ノ收税吏タラサル可ラサレハナリ
雑税ノ為メニ賦税吏及ヒ收税吏ヲ命スルニ實際ニ於テ一人ニ

シテ其職ヲ兼子シムルハ恰モ地税ノ為メニ命スル者ニ異ナラス而シテ所得税ノ場合ニ於ケルモ亦既ニ然リトス是レ地税及ヒ雑税ノ賦税吏トシテハ其俸給ノ足ラサルカ故ニ躬ラ收税吏ニ推薦シテ其職ヲ兼子以テ收税吏ノ享有スヘキ一磅ニ付キ若干ノ割合ニ當ル給料ヲ得シカ為メナリ而シテ今ヤ此慣習ハ所得税ノ賦税吏ニ波及シ其弊害タル地税及ヒ雑税ニ於ケルヨリモ更ニ甚シトス況シヤ所得税ヲ掌ル賦税吏トシテハ收税吏カ其納付スル收税額一磅ニ付キ三還尼半ノ俸給ヲ享クルニ拘シ同額ノ俸給ヲ享有ス可ラサル者タルニ於テヲヤ今茲ニ所得税ノ賦税吏ニシテ收税吏ノ職ヲ兼ヌルノ弊害ヲ掲ケンニ曾テ賦税吏トシテ某ヨリ呈スル所得税ノ申述書ヲ受領シ乗テ收税吏ノ職ニ在テ其税金ヲ收入シテ悉ク躬ラ之ヲ濫用シ而シテ後チ前ノ申述書ヲ投棄セリ故ニ某ヨリ收入シタル税額ハ該吏ニ對シテ其納付ヲ促スヲ得サリシナリ

所得税ノ事

地税法ノ汎流ナル雑税收入ノ舊法ハ彪士氏カ始メテ所得税ヲ課スル時ニ當リ少シク改正ヲ加ヘテ之ヲ施行シ後チ可ベルトビー氏ノ更始スル所トナリ以テ今日ニ至ル

所得税務ヲ掌ル地方委員ナ班テ二級トス普通委員委員補助チ是ナリ各區ノ地税務委員ハ同僚ヨリ七名ヲ擇ンテ普通委員トシ又普通委員ノ欠員アル時ニハ別ニ七名ノ委員補ヲ選挙セサル可ラス而シテ其欠員ニ補スヘキ委員ハ為メニ本寮ヨリ招集スル地税務委員ノ會議ニ於テ之ヲ定メ倫敦ガゼット新聞紙ヲ以テ公告ス

英倫ノ所得税務普通委員ハ二三ノ地方ヲ除クノ外動産不動産ノ別ヲ問ハス一箇年二百磅ニ値スル財産ヲ有セサル可ラス又

所得税務委員補ハ通常地税務委員ノ選挙スル者ヨリ抜擢シ所得税務普通委員ニ於テ之ヲ命ズ而シテ其財産ノ制限ハ普通委員ノ半額ヲ以テ足レリトス

普通委員ノ職務ハ本區内ニ於テ所得税法ヲ施行シ及ヒ附属ノ官吏ヲ命スルニ在リ蓋シ所得税ヲ賦課スルノ一點ニ関シテ其職務ハ特リ〔イ〕〔ロ〕〔ホ〕ノ科目ニ限ルト雖モ若シ課税ノ不當ニシテ人民ノ控訴スル時ニ方リ裁判官タルノ地位ニ在テハ啻ニ其權限ノ〔イ〕〔ロ〕〔ホ〕ノ科目ニ及フノミナラス尚〔ホ〕ノ科目ニ〔ヘ〕預スルノ權アリ

委員補ノ職務ハ專ラ〔ニ〕ノ科目ニ属スル税務即チ商賈或ハ職業者（譯者曰ク職業者トハ官吏或ハ代言人ノ如キ者ヲ指シテ云フ）ノ利益ニ課スル税務ヲ處分スルニ在リ故ニ委員補ハ其實ハ此科目ニ属スル税ノ賦課人タルニ過キサルノミ

所得税ヲ賦課スルニ又他ノ二委員アリ其一ヲ特殊委員トシ其ニヲ官衙ニ勤仕シ及ヒ或ル會社（コンパニー）ニ使用スル者ノ俸給税ヲ課スルカ為メニ任スル委員トス然リ而シテ此第二委員ノ職務タル多クハ慣例ノ事業ニ属スルヲ以テ茲ニ之ヲ詳記スルヲ要セス

特殊委員ハ千八百四十二年ニ於テ創設シ當時ノ法令ニ據レハ印税三税務委員ハ別ニ大藏事務長官ノ命スル者ヲ併セテ所得税務特殊委員タルヘシトノ條款ヲ載ス是ヲ特殊委員ヲ設クルノ起源トス而シテ今ヤ特殊委員ハ本寮ノ官吏ヲ併セテ僅ニ三名ニ過キサルノミ

特殊委員ハ若シ納税者ニ於テ地方委員ニ代テ課税セラレンヿヲ要求スル片ハ〔ニ〕ノ科目ニ属スル税ヲ賦課スルヲ得ヘク又既ニ地方委員ニ依テ課税セラレタル者ハ控訴期限中ニ在テハ監視官若クハ檢査官ニ報知スルノ後普通委員ノ代リニ特殊委員

ニ控訴スルヲ得ヘキ者トス

始メ愛尔蘭ニ於テ所得税ヲ賦課スルヤ所謂三税務ヲ掌ル地方委員ナキノ故ヲ以テ恰モ英倫ニ於テ普通委員ノ享有スル権理ヲ特殊委員ニ付與シテ之ヲ處分セシメ賦税吏及ヒ委員補ノ職務ノ如キハ委ク検査官ニ於テ之ヲ執行セシム而シテ人民ハ何ノ場合ニ於テスルヲ問ハス課税ノ不當ナルアレハ特殊委員ノ復審ヲ請ヒ其判決ニ服セサルトキハ本州ノ「バレストル」ニ控訴スルヲ得ヘキノ権ヲ有ス

特殊委員ハ鐵道會社該社役員ノ俸給外國及ヒ植民地政府ノ歳入ヲ以テ内國ニ於テ拂ヘル金利外國及ヒ植民地會社ノ株式資本若クハ股分上ニ拂ヘル金利ニ課税スルヲ掌ル

所得税務ヲ掌ル地方委員ニ属スル書記并ニ賦税吏收税吏等ノ職務ハ地税及ヒ雜税ニ於ケル者ト異ナル所ナク而シテ前既ニ陳述スルヲ如ク通常一人ニシテ之ヲ兼ス

既ニ斯ノ如ク行政官ニ関係ナキ人ヲシテ地税ノ賦課收入ニ從事セシムルノ法ヲ設ケ尋テ異時ノ改正ヲ經テ之ヲ雜税及ヒ所得税ノ課收ニ及ホシタルノ概要ヲ陳述シ了リタレハ今ヤ一歩ヲ進メテ本案ニ於テハ三税務ヲ掌ル監視官及ヒ検査官ヲシテ監視セシムルノ法ヲ略記セサル可ラス

監視官及ヒ検査官ノ事務章程ハ千八百十年ノ法令ニ基ク者甚タ多シトス此法ニ據レハ監視官及ヒ検査官ハ地方委員タル人民ヨリ呈スル申述書ニ捺印シテ課税スルノ前後ニ於テ之ヲ検査スルノ権ヲ有ス蓋シ其検査ヲ執行スル方法等ニ至テハ所得税ヲ賦課スルノ法ヲ説明スルニ當リ自ラ瞭然タルヘキヲ以テ姑ラク之ヲ措キ唯茲ニ記スヘキ一事アリ即チ甲區ノ住民ニシテ既ニ課税セラルヽ後乙區ニ移住スルキハ甲區ノ検査官ハ之

ヲ乙區ノ檢査官ニ報セサル可ラス是乙區ノ檢査官ヲシテ其人ノ挙動ニ注念シ且甲區ニ於テ申述書ヲ呈シテ既ニ課税セラレタルノ情状ヲ訊問セシメンカ為メナリ

所得税ヲ課スルノ發令アルヤ檢査官ハ納税者ヲシテ申述書ヲ呈セシメンカ為メニ務メテ速ニ本寮ヨリ給備スル申述書ノ用紙ヲ以テ賦税吏ニ交付セサル可ラス此ニ於テ予賦税吏ハ之ヲ受ケ本管内ニ於テ年ニ十磅ニ値スル家屋ニ住スル者ニハ〔イ〕及ヒ〔ロ〕ノ科目ニ用フヘキ用紙一葉ヲ配付シ其商業ヲ營或ハ未タ曾テ課税セサルノ利潤ヲ享有スヘシト思量スル者ニハ〔ハ〕ノ科目ニ用フヘキ用紙一葉ヲ配付ス而シテ人民ハ此用紙ヲ配付スルノ日ヨリ二十一日間ニ於テ申述書ヲ呈セサル可ラス

既ニ如斯ノ賦税吏ハ申述書ノ用紙ヲ配付スト雖モ果シテ納税者ニ於テ申述書ヲ呈スルト否トニ至テハ敢テ其責ニ任スルナシ何トナレハ則チ成法ニ據テ一般ノ公告書ヲ寺院ノ門戸ニ貼付セシメ此公告書ヲ以テ區内ノ住民ノ為メニ充分ナル告知ナリト看做スカ故ニ若シ人民ニ於テ申述書ヲ呈スルヲ怠ルトキハ假令ヒ賦税吏ヨリ其用紙ヲ受領セサルモ必ヘ五十磅ノ科金ヲ追徵セラルヘキヲ以テナリ

一家ノ主ニ於テ申述書ヲ呈スルヤ必ス其書中ニ同居寄留人ノ姓名ヲ記シ備主ハ亦被備人ノ姓名并其住所ヲ記セサル可ラス是レ賦税吏ヲシテ其本人ニ申述書ノ用紙ヲ配付セシムルノ便ヲ計レハナリ又會社ノ首長ハ特リ該社役員ノ姓名ノミニ止ラス併セテ其給料ノ額ヲ記セサル可ラス

〔イ〕〔ロ〕及ヒ〔ホ〕ノ科目ニ屬スル申述書ハ之ヲ賦税吏ニ呈シ〔ニ〕ノ科目ニ屬スル者ハ之ヲ封緘シテ地方委員ノ書記若シハ賦税吏ニ呈ス然レトモ若シ人民ニ於テ〔ニ〕ノ科目ニ屬スル税ヲ特殊委員ニ

テ賦課セラレンコトヲ要ムルトキハ其申述書ヲ檢査官ニ呈セシム

一箇年ノ所得百磅以下ナル故ヲ以テ所得稅ノ免除ヲ請フヲ或ハ其所得ノ百磅ヨリ二百磅ニ至ルノ間ニ在ルノ故ヲ以テ其所得ヨリ六十磅ヲ除算シテ剩餘額ニ課稅セラレンコトヲ請フ者アルトキハ各々本件ニ用フヘキ用紙ヲ以テ之ニ給ス

イ及ヒロノ科目ニ於ケル課稅法

イ及ヒロノ科目ニ於ケル課稅ハ當初賦稅吏ニ於テ之ヲ施行シ談吏ハ申述書ノ各目及ヒ各所有物ニ課シタル救育稅（即チ地ノ稅）額ヲ課稅簿ニ詳記セサル可ラス故ニ救育稅簿ノ爲書ハ証考ニ備フル爲メ二年毎ニ之ヲ具備ス若夫レ申述書ニ記スル所ノ所得充足ナラス或ハ人民ニ於テ申述書ヲ呈セサルトアレハ賦稅吏ハ躬ラ救育稅ノ額ニ照準シテ其所有物ノ額ヲ算測セサル可ラス而シテ其方法ハ譬ヘハ本區内最昂ノ地代ニテ貸與シタル他ノ所有物ニ救育稅ヲ課スル其地代ノ二割ニ降ルトキハ賦稅吏ハ彼ノ申述書ヲ呈セサル所有物ニハ之ニ照準シ其救育稅ヲ課スルノ額四分一ヲ增加シテ之ヲ課ス且各種ノ土地借地及ヒ遺田等ハ之ヲ使用スト否トヲ論セス總テ課稅ハト雖モ其後ノ法令ヲ以テ其使用ニ供セサルノ間ハ之ヲ免除セシメタリ

賦稅吏ノ課稅既ニ了レハ課稅簿ヲ以テ本區ノ委員ニ交付シ該委員ニ於テ之ニ捺印スト雖モ其捺印ニ先チ檢査官ハ申述書ノ各目ヲ課稅簿ニ謄寫スル乎ヲ檢査シ次ニ救育稅ニ比較シテ課稅ノ額ノ適當ナル乎ヲ審案シテ之ヲ前年ノ課稅額ニ對照ス且イ及ヒロノ科目ニ屬スル課稅ハ三年間ハ之ヲ改正スルヿ無ク其價直ノ減スルトキハ隨テ其稅ヲ減却シ從前ノ課稅ノ適當ナラサルトキハ隨テ其稅ヲ增重ス將タ檢査官ハ三年ノ内第二第三ノ年ニ於テノミ賦稅吏ノ職ニ在テ課稅ノ事ニ從フ

二ノ科目ニ於ケル課税法

二ノ科目ニ於ケル課税法ハ稍々前法ニ異ナル所ナキニ非ス始メ人民ヨリ申述書ヲ受領スルヤ委員ノ書記ハ申述書ノ各目ヲ課税簿ニ謄寫シ其申述書ヲ呈セサル場合ニ於テハ賦税吏ノ測算スル額ヲ以テ之ニ謄寫シ検査官ノ調査スルヲ俟テ而シテ後チ委員補ハ課税スヘキノ額ヲ審案考覈ス蓋シ此課税ノ額タルヤ検査官ノ照會ニ依テ屢々増多スルノ場合ナキニ非ス而シテ若シ委員補ニ於テ検査官ノ照會スル所ヲ以テ情状ニ適ヒスト判スルキハ検査官ハ之ヲ普通委員ニ控訴スルノ権アリ

○

課税ノ額既ニ一定スルヤ委員ノ書記ハ税金收入ノ報告ヲ發ス蓋シ課税ノ額ヲ以テ不満トスルノ場合ニ於テハ普通委員之カ審判ヲ為シ其減税スヘキ者ハ委員ノ書記ニ於テ課税簿ノ税額ヲ改メ普通委員之ニ捺印シテ以テ証ト為ス然リト雖モ検査官ニ於テハ既ニ検査官ノ照會ニ依ルカ或ハ本人ノ控訴ニ依テ普通委員ノ審判セシ場合ヲ除ノ外課税ノ年ヲ終ルノ後十二箇月間ノ何レノ日ヲ問ハス課税ヲ逃レシ者ニ課スルヲ得ヘク又課税ノ額ノ充足ナラサルヿヲ査出スレハ課税ノ年間或ハ課税ノ日ヨリ三箇月間ノ何レノ日ヲ論セス追課スルヲ得ヘキノ権ヲ有ス

○

控訴ノ審判既ニ終ルヤ課税簿ノ副書ヲ以テ收税吏ニ交付シ收税吏ハ之ヲ受ケテ始メテ税金ノ收入ニ從事ス蓋シ昨年間議定スル所ノ法令ニ據レハ本税金ハ第一月一日前ニ在テ之カ收納ヲ促スヲ得スト雖モ其改革タルヤ殊ニ輓近ノ舉行ニ係ルヲ以テ姑ラク從前施行スル所ノ收税法ニ據リ毎季ニ分收スルノ制

ヲ廢シテ毎年一次ニ之ヲ收入スル時ノ方法ヲ記セサル可ラス
收稅吏カ第一ニ挙行スヘキ要務ハ躬ラ納稅者ノ家ニ到リ自己
ノ住家ニ於テ納稅センヿヲ促スニ在リ若シ此時ニ於テ納稅セ
サルトキハ本稅ノ額ヲ記シ且納稅ノ期日及ヒ其場所ヲ示ス所ノ
報告書ヲ送達シ其後ニ至テハ復タ納稅者ニ對シテ之ヲ促スヿ
要ヒス而シテ收稅吏ハ本寮納金官ニ於テ定ムル所ノ日ニ於テ
躬ラ收入シタル稅金ヲ納付スルニ足ルヘキノ期日ヲ豫定シテ
速ニ之カ收入ニ從事セサル可ラス
地方委員ノ書記ハ豫シメ稅金納付ノ日ヨリ二週日前ニ於テ各
小區内ノ課稅額ヲ記スル所ノ証書ヲ納金官ニ送致スルヲ以テ
收稅吏ハ必ラス其額ヲ全納セサル可ラス若シ收稅吏ニ於テ納
金ノ席ニ會スルヿヲ怠リ或ハ收入金ヲ納付セス若クハ滯納金
ニ就テ其理由ヲ解明セサルトキハ納金官ハ其未納金額ヲ証書ニ
記シテ備ニ之ヲ具状シ收稅吏ハ為メニ會計裁判所ニ於テ証書
面ノ金額五分ノ科金ヲ追徵セラルヘシ
收稅吏ニ於テ未納金アルヤ二通ノ未納稅目録ヲ製シ其一ニハ
破産若クハ轉住スルノ故ヲ以テ納稅セサル者ノ姓名ヲ記シ其
二ニハ稅金ノ收納ヲ侵スモ之ヲ納メサル者ノ姓名ヲ載セ且課
稅簿ノ副書ヲ受領スルノ後ニ於テ控訴スルアリ因テ長官ノ課
稅額ヲ減却シ或ハ家屋ニ居住スル無キノ故ヲ以テ課稅ス可ラ
サル等ノ事由ヲ詳記シ之ニ誓詞シテ納金官ニ送致セサル可ラ
ス蓋シ第二ノ目録ニ就キ政府ニ於テハ豫シメ收稅吏カ稅金ノ
皆納者ヲ併セテ其目録中ニ登載センヿヲ恐レ檢査官ヲシテ收
稅吏カ稅金未納者ナリト指名スル者ニ其事由ヲ告知シ納稅ヲ
促スノ書信ヲ贈ラシムルカ故ニ收稅吏ニ於テ詐偽ノ目録ヲ製
スルトキハ直ニ發覚スルヲ得ヘク又此他ニ奸計ヲ防カンカ為メ

ニ收税吏ヲシテ本寮ヨリ供備セル書式ノ領受証ヲ發シ其証書ノ符合帝ニハ納税者ノ姓名ト納税金額トヲ記セシメ若シ之ヲ怠ルトキハ各犯ニ付十磅ノ罰金ヲ追徵ス

（コーンスタイル）

至當ノ期日内ニ於テ税金ノ納ラサルトキハ收税吏ハ課税簿ノ副書ニ附録スル委任状ニ照準シテ之ヲ回收スルノ處分ヲ施サヽル可ラス故ニ此場合ニ於テハ満四日間財産ヲ抑留シ其經費ハ納税者ヲシテ之ヲ償ハシム〔経費ノ額ハ議院ニ於テ之ヲ定メ收税吏ノ命令書中ニ登記ス〕若シ此期日ヲ終リ未納金ヲ皆納セサレハ抑留ノ財産ヲ估價シテ賣却ス

又收税吏ハ総テ回收ス可ラサル税金ノ目録ヲ製シ之ニ誓詞シテ地方委員ニ送リ以テ其筭計ヲ終ヘサル可ラス既ニ斯ノ如クスルトキハ檢査官ハ其情状ヲ審案シ委員ノ書記ヲシテ二通ノ目録（羊皮紙ヲ以テ之ヲ製スヲ製セシメ其一ニハ各小區ニ於テ不住家等ノ故ヲ以テ免除スヘキ課税ノ總額ヲ記シ其二ニハ或ハ本區ヲ去テ他區ニ住シ或ハ税金ヲ回收スルニ足ルヘキ財産ヲ有セサル者ヨリ猶ホ收入スヘキ税金ノ全額ヲ載ス然リ而シテ此等ノ未納金ヲ處分スルハ即チ本寮監視官ノ主務ニシテ務メテ之ヲ回收スルヲ得ヘキノ機會ヲ案シテ其局ヲ全了セサル可ラス

甲區ニ於テ課税セラレ之ヲ完納セスシテ乙區ニ移住ヽル者アルトキハ甲區ノ委員ハ本寮ヲ經由シテ乙區ノ委員ニ書票ヲ送致シ納税者ノ物件ヲ抑留シテ未納税金ヲ回收セシム蓋シ此書票ハ〔イ〕ノ科目ニ於ケル家屋ノ税ニハ之ヲ使用スルヿ無シ

納金官ハ毎日期ラ收入スル税金ノ全額ヲ英國銀行ヲ經由シテ之ヲ納金長官ニ納付ス而シテ該銀行ヲ經由スル金額ハ直ニ大蔵省ニ到達スト雖キ其私立銀行ヲ經由スル者ニ至テハ通常十日受取ノ手形ヲ以テスルヲ例トス且納金官ハ一日ノ收納ヲ結

了スレハ各小區ニ於テ收入シタル稅金ノ細目及ヒ收稅吏ノ交付セル目錄ニ載スル所ノ金額并ニ一切ノ未納稅金等ヲ詳記スル算計表ヲ製シテ既ニ收納ノ席ニ列スル檢査官ニテ確証シタル者ヲ算計課長ニ送致シ又檢査官ハ一般ノ稅金收納ヲ結了スルノ後テ各小區ノ未納稅金額ヲ詳記スル算計表ヲ製シテ本寮ニ送致セサル可ラス是本寮ニ於テハ監視官ヲシテ各件ノ情狀ヲ審査シ以テ政府ノ歲入ヲ保護スルニ必須ナル處分ヲ施サシメンカ為メナリ

將タ未納ノ殘餘額ニ就テハ收稅吏ヲシテ英國銀行若クハ政府ノ特許シテ送金ノ事ヲ掌ラシムル他ノ銀行ヲ經由シテ之ヲ納付セシメ或ハ次期ノ納金巡回ニ於テ納金官ニ納付セシム

倫敦若クハ維多利亞第八十五章ノ法令ニ基キ豫シメ收稅吏ヲシテ抵當ヲ納メシメタル他ノ都會ニ於テハ通常收稅吏ヲシテ

一週日毎ニ其收入ノ稅金ヲ納付セシムルヲ例トス然リト雖モ今ヤ收稅新法ニ據レハ收稅吏ハ第一月ニ於テ收入スヘキ稅金ノ殊ニ巨額ナルヲ以テ本寮ニ於テハ第一月二十日前ニ納金會ヲ開カサル大區ノ收稅吏ハ其收入金ノ巨額ナルニ至レハ何ノ日ヲ問ハス直ニ之ヲ納付スヘキヲ令セリ

蘇格蘭

蘇格蘭ニ於テ雜稅ヲ課收スルノ法ハ原來英倫ト其規ヲ一ニセンヿヲ要セリト雖モ奈何セン〻諸國ニ於ケル地方賦稅吏ヲ以テハ其目的ヲ達スルヲ得サルヲ是賦稅吏ニ支給スル一磅ニ付キ若干ノ俸給ハ其額ノ僅々タルヲ以テ其職ニ任スルヲ屑トセサルハナリ此ニ於テ予議院ニ於テハ新タニ法令ヲ制定シテ賦稅吏

ニ欽員アルヤハ檢査官ヲシテ課稅ノ事ニ從ハシメ千八百五年以降ハ連綿トシテ之ヲ施行セリ

所得稅務ヲ掌ル委員ハ恰モ英倫ニ於ケルカ如キ方法ヲ以テ之ヲ命シ該委員ハ亦躬ラ賦稅吏ヲ命ス

該國内十五州或ハ其州ノ或ル地方ニ於テハ檢査官ヲシテ賦稅吏ノ職ヲ兼子シメ二ノ科目ニ於ケル課稅ハ猶ホ英倫ニ於ケルカ如ク委員補之ヲ掌ル

所得稅務委員ハ亦自己ノ書記ヲ命ス而シテ其俸給ハ課稅ノ金額一磅ニ付ニ邊尼ノ割合ヲ以テ一箇年五百磅ニ至ルマテヲ給シ其課稅ノ金額ニ贏餘アレハ一磅ニ付一邊尼ノ割合ヲ以テ之ヲ增給ス

千八百三十三年以降蘇格蘭ノ賦稅吏ハ政府ノ命スル所トナリ通常印紙ヲ配官ヨリ之ヲ選拳スト雖モ其以丁堡及ヒ哥剌斯哥ニ在テハ國産稅務總長其稅金ヲ收納ス又從前蘇格蘭ノ稅金ハ恰モ英倫ニ於ケルカ如ク一箇年四次ニ分割シテ之ヲ收納スト雖モ千八百三十三年以降ハ每年第一月ヲ以テ一次ニ收納セシム

地稅及ヒ雜稅

	第三月三十一日ニ終ル年度間		
	千八百六十八年磅	千八百六十九年磅	增額磅	減差磅
地稅	一、〇九二、七一五	一、一七、五九〇	二四八七五	、、、、
家稅	一、〇六八、七七三	一、一三一、三四九	六二、五七六	、、、、
僕稅	二二〇、四五六	二三三、九三三	一三、〇七七	、、、、
馬車稅	三八二、九一一	四〇八、六〇四	二五、六九三	、、、、
馬稅	四一一、九七〇	四三五、五七四	二三、六〇四	、、、、
養犬稅	一九一、六六三	七〇、〇〇八	、、、、	一二一、六五五

馬商税	一四、九四九	一六、一三三	一、一八四	、、、、、、
粉髪税	九二五	九七五	五〇	、、、、、、
徽號税	六四、四六二	六八、七八七	四、三二五	、、、、、、
維多利亜第十七章ノ一割ノ増税	一、四九四	一、六一三	一一九	、、、、、、
全増額	三、四五〇、三一八	三、四八四、一六六	一五五、五〇三	一二一六五五

地税

抑々地税ノ淵源タル普子ク人ノ諒知スル所ナリト雖ドモ暴ニ千六百九十二年始メテ該税ヲ賦課スルニ際シ政府ノ會計ハ如何ナル状況ナリシヲ略記スルハ敢テ無益ノ業ニ非サルヘキヲ信シ茲ニ可ールドマコーレ氏ノ著書中ヨリ抄出スル左ノ如シ

會計委員ハ地税ニ因テ當千六百九十二年歳費ノ多ヲ償ハンヿヲ議

定ヒ蓋シ地税ヲ課スルノ法タルヤ其起源ハ甚タ悠久ナリト雖ドモ其地税ト称スヘキノ域ニ至リシハ此年ヲ以テ始トス憶ニ往古ヨリ降テ第十七百紀ノ半ニ至ルノ間ニ方テヤ我カ議院ハ所謂扶助金ナル者ヲ允准シテ政府ノ非常費ニ供セシカ其扶助金ハ全國人民ノ財産ヲ概計シテ之ニ課シ殊ニ土地ノ如キハ課税ノ最モ至要ナル者ナリキ夫レ斯ノ如ク土地ハ課税ノ要目ナリト雖ドモ其額ヲ問ヘハ漸ク一磅ニ付四司令ノ割合ニシテ其地價ノ騰翔シ金銀價格ノ低下スルニ及テハ僅々一磅ニ付二邊尼ニ過キス故ニ若シ查尓斯一世ノ時代ニ於テ地税ノ率一磅ニ付四司令ノ割合ニ據テ課セシメハ百五十万磅ノ歳入ヲ得ヘキモ所謂補助金ナル者ハ其額僅ニ五万磅餘ニ過キサリシナリ然ルニ長期議院千六百四十年第十一月ヨリ千六百六十年第三月ニ至ル間ノ議院ヲ云フ時ニ至テ當時ノ財政家ハ頗ル其法ヲ改正

シテ先ツ課税ノ金額ヲ定メ次ニ政府ノ想像ヲ以テ人民ノ貧富ニ應シテ之ヲ各州ニ分賦セリ故ニ民治政府ニ於テ收ムル所ノ額ハ毎年三万五千磅ヨリ十二万磅ニ至ルノ間ニ在リキ

民治政府既ニ頽レ王統継立スルニ至テハ會計法モ亦自ラ舊時ニ復シ議院ヲ扶助金ヲ允准スルヤ一二次ニ及ヘリト雖モ舊法ハ以テ新法ニ較フルニ足ラス即チ民治政府ノ轍ニ倣ヒ革命ノ乱ヨリ王家再興ノ間ニ於テハ屢々巨額ノ地税ヲ課シ其後佛國トノ戦争起ルニ及ンテモ亦毎年地税ヲ課シテ軍資ニ供シ其額ノ巨大ナルハ千六百八十九年ヨリ千六百九十一年ニ至ルノ間ニ於テ殊ニ甚シク遂ニ千六百九十二年下院ノ決議ニ因テ新タニ全國内ノ地價ヲ精査シ地代一磅ニ分若干ノ税ヲ課シテ以テ従前ニ比スレハ更ニ一層巨額ノ歳入ヲ得ルニ至レリ

地税成立ノ起源タルヤ概子斯ノ如シ而シテ千六百九十二年ノ地價ハ今日ニ至ルマテ曾テ之ヲ改正スル無ク且當時ノ地價ニ據リ全國ノ地代一磅ニ分一司令ヲ課スレハ一年ノ收額五十万磅ニ至ルヘシ蓋シ當時ヨリ今日ニ至ル百六年間政府ニ於テハ毎年必ス地税賦課法案ヲ紹介セシカ假令ヒ府外ニ住スル紳士ノ非難アルヲ免レサルモ議院ハ恒ニ之ヲ允可シ戦時ニ在テハ則チ其率一磅ニ分四司令ヲ課シ惹尓日三世ノ未タ王位ヲ継カス國家静謐ノ際ニ於テハ漸ク二三司令ヲ課シ其宰相ワルポール氏ノ持重温和ナル施政ノ間ニ於テハ地税ヲ課スル僅ニ一司令ニ過キサリキ

然ルニ我政府カ師ヲ出シテ亜墨利加植民地ヲ征スルニ方テヤ地税ノ率ハ曾テ四司令ニ下ラス遂ニ千七百九十八年ニ於テ議院ハ毎春地税賦課法案ヲ紹介スルヲ止メテ四司令ノ定

額税ヲ永遠ニ課スルニ次シ且網税者ヲシテ地税賠償法ニ基テ之ヲ國債ノ償却ニ向クルヲ得セシメタリ是ニ於テカ地税ハ多クハ國債償却ノ資本ニ向テ而シテ曾テ政府ノ歳入中ニ於テ巨額ノ地位ヲ占メタル地税ハ今ヤ平時ノ歳入ヲ五分シテ其一ニ居ルニ過キサル也ト云云

此史ヤ地税ノ沿革ヲ概見スル為メニハ充分ニ明瞭ナリト雖モ未タ以テ蘊奥ヲ悉スニ足ラス故ニ今其實況ヲ知ラント欲セハ更ニ一歩ヲ進メテ詳説スル所ナカル可ラス

所謂地税ナル者ハ其實ハ所有物税即チ所得税ニシテ動産ノ如キモ亦土地ニ比例シテ課税シタルヤ疑ヲ容ル可ラス故ニ千八百九十二年ノ法令第一條ニ課税ノ目的ヲ説テ今ヤ佛國ニ向テ快戰ヲ試ル為メニ一年間一磅ニ付四司令ノ補助金ヲ皇帝陛下ニ奉獻スヘシト云ヒ其第二條ニ於テハ凡ソ國ノ内外ニ於テス

ルヲ問ハス或ハ現金ヲ貯蔵シ或ハ他人ヨリ受領スヘキ負債資金ヲ有シ若クハ物件商貨其他一切ノ資産ヲ有スル者ハ官吏ナルト社員ナルトニ論ナク総テ一年ノ實價ニ從ヒ一磅ニ付四司令ヲ皇帝陛下ニ奉獻スヘク即チ之ヲ細説セハ如斯キ現金若クハ負債資金百磅或ハ物件商貨其他ノ資産ノ價金ノ百磅ニ付二十磅ヲ課スルノ謂ヒナリト云ヒ又第三條ニ據テ海陸軍ノ士官ヲ除クノ外官衙若クハ他ノ利益ヲ享有スヘキ會社等ニ勤務スル者ノ俸給或ハ利益ノ金額一磅ニ付四司令ノ税ヲ課シ其第四條ニハ吏ニ皇帝陛下ノ非常費ニ供スル為メニハ務メテ土地借地及ヒ譲與地ノ實價ニ比均シ其年價二十司令ニ付四司令ノ税ヲ課スルヲ得ルノ旨趣トニ基キ茲ニ貴族所領ノ地建家地土地借地金石坑ノ價金及ヒ通運税并ニ各種譲與物ノ年價二十司令ニ付四司令ノ税ヲ課スヘシト云ヘリ

課税ノ方法モ亦之ニ従テ起リ動産ノ税ヲ課スルハ猶
ホ地税ニ於ケルカ如ク殊ニ注意セサル可ラサルカ故ニ賦税吏
ニ令スルニ區内ニ住スル者ノ名簿ヲ製シ其所有ノ現金物件家
什其他一切ノ動産ノ性質ヲ詳記シテ之ヲ開申スヘキヲ以テシ
且此動産税ハ各人住居ノ地ニ於ケル動産ニ就テ之ヲ算課シ其
戸主ニアラサル者ハ該法ヲ施行スル時ノ住所ニ於テシ其外國
ニ去ル者ハ曾テ内國ニ在ル時ノ住所ニ於テス然リ而シテ所有
動産ヲ隠匿スルヲ得サンカ為メニ各戸主ナシテ寄留人ノ所有
スル動産簿ヲ呈セシメタリ
蓋シ千六百九十二年ノ法令ヲ以始メテ地税ノ称ヲ下セリト雖
モ千六百九十七年ニ在テハ未タ曾テ今日施行スル所ノ方法即
チ全國内ニ課スヘキ地税ノ額ヲ定メテ之ヲ州府市等ニ分賦ス
ルノ制ヲ施スニ至ラスシテ政府ハ假令課税ノ方法ニ於テ更ニ
異ナル所ナキモ毎年必ス之ヲ新定シ又全國ノ課税ヲ以テ府市
等ニ分賦スルノ額ハ稍々同シカラサル所アルモ但ニ原礎ニ基
テ之ヲ定メ遂ニ千七百九十七年ヲ以テ毎年地税法ヲ新定スル
ノ制ヲ廢シタリ
今夫千六百九十七年及ヒ千七百九十七年ノ法令ヲ考フルニ動
産税ハ實ニ該法ノ主トシテ課セント欲スルノ目的タルヲ知ル
故ニ其首章ニ物件商賃賑恤金及ヒ俸給等ニ一磅ニ付四司令ノ
税ヲ課スルノ條款ヲ掲ケ其地税ニ関シテハ恰モ補助税ニ於ケ
ルカ如ク他ノ財源ニ課税シテ後チ其足ラサル所ハ大蔵省ニ收
入スヘキ地税ヲ以テ之ニ充ル旨ノ句ヲ載セテ此法令ヲ以
テ各州ニ課税シ得ヘキノ旨趣ニ基キ茲ニ土地ニハ既ニ該法ヲ
以テ課税即チ動産税ヲ云フシタル額一磅ニ付若干ノ税ヲ課スヘシ云云
ト云ヘリ蓋シ動産税ハ何ノ方法ニ因テ之ヲ課セシ乎将タ其股

然此地ノ比例ハ幾許ナリシヲハ今日ニ於テ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ宰相ピット氏ノ時ニ當リ動産税ハ殆ント皆無ニ屬シ每年地税ノ称ヲ以テ賦課スル所ノ税ハ實ニ地税タルノ名ニ背カサルノ狀アリ故ニ千七百九十九年列ワ山區ノ課税表ヲ閲スルニ動産税ハ僅々二百二十七磅ニ過キサルモ地税ニ至テハ二万九千九百六十四磅ノ巨額ニ至リ又千八百二十三年間猶利顛國ノ動産ニ課スル一分税ニ因テ收入スル所ノ額ハ僅ニ五千四百十六磅十司令ニ過キサリキ

今斯ノ如クニ論シ去ラハ或ハ現施税法ノ實務ニ關係ナキ事ニ就テ喋々スルノ無益ナルヿヲ評スル者アルヘシト雖モ曾テ會計法ニ此奇異ノ不規則アリシハ實ニ我カ歳入ノ一大沿革ナリト云ハサル可ラス憶ニ從前議院ニ於テハ每年動産税ヲ賦課スルニ就テ繳密ノ法令ヲ制定シ又賦税吏ハ誠實ニ其法令ヲ履行スルノ証トシテ每年誓詞ヲ呈スルニ拘ハラス曾テ之ヲ實踐スル無キハ豈ニ怪ムヘキニ非スヤ然リト雖モ若シ千八百二十三年ノ統計表ヲシテ今日ニ保存スル莫カラシメハ余等カ奇異ノ情ヲ嗅呼スルヤ寧ロ如斯ノ甚シキニハ至ラサルヘシ

千六百九十七年ノ法令ハ即チ方今施行スル地税ノ基礎ニシテ千六百九十二年ノ法令ニ據ルニ非サルノ理タルヤ既ニ説得明瞭ナリ蓋シ千六百九十二年ノ法令ハ若干ノ率ヲ定メテ地税ヲ課シ更ニ委員ヲ命シテ各區ニ於テ之ヲ課スルノ公平均當ナル乎ヲ監察セシメ千六百九十七年ノ法令ヲ以テハ英倫及ヒ威勒士ニ百四十八万四千零十五磅一司令十一邊尼四分三ヲ負擔セシメ之ヲ州府市等ニ分賦シタリ故ニ各州委員ハ之ヲ課收センカ為メニ各々會同シテ州内ノ村三邑ニ郷一等ニ分賦スルノ額ヲ定メ各々三名以上ニ分レテ各區ニ派出シ以テ其額ヲ課收

セサル可ラサルニ至レリ

議院ノ法令ヲ以テ地税ヲ各州ニ分賦シ委員ハ又之ヲ各區ニ細分スルノ額ハ比シク是千六百九十二年ノ當初ノ課税ニ照準シタルヤ疑ヲ容ルヘカラス故ニ其後百餘年間ニ於テ委員ハ毎年維廉及ト馬利（千六百九十二年）ノ世ニ決定シタル比例ニ從テ地税ヲ細分スヘキノ指令ヲ政府ニ系ケシト雖モ此指令ハ千七百九十七年彪土氏ノ時ニ於テ之ヲ廢止セリ蓋シ當初ノ課税ノ比例ハ彪土氏ノ時ニ至ルマテ之ヲ維持シタルノ實証ヲ知ラント要セハ須ラク古代ノ公文書類ヲ保存スルノ地ニ就テ之ヲ求ムヘシ必スヤ其言ノ誣ヒサルヲ知ルニ足ラン

地税主簿「ハルウヱ」氏カ我カ地税法及ト地税賠法ニ通曉スルヤ殊ニ緻密ナリトス然ルニ氏ハ近頃「ダワ」區ニ於ケル往時ノ統計表ノ埋没セル者ヲ發見シタリ依テ之ヲ左ニ掲ク

千六百九十三年ニ於ケル四司令扶助金

千六百九十八年及ト千六百九十九年ニ於ケル三司令扶助金ノ股分

千七百九十九年ノ股分	地税	三四、〇五七	〇五、五
	動産税	二五、五四〇	一九、一 3/10
	賑恤金及ト俸給税	三四、〇四一	一二、一
千七百九十八年ノ股分	地税	二九、九六四	一五、一 1/2
	動産税	二二七	一五、五
	賑恤金及ト俸給税	二、三二〇	〇二、四 1/2

千七百九十八年第四月二日彪土氏ハ地税賠償法ヲ畫策シテ之ヲ下議院ニ演説セシカ其第一着ノ方法タルヤ先ツ當時ノ地税ヲ永遠ニ賦課スルニ在テ氏ハ為メニ當年間ノ課税ヲ發言シタリ即チ其演説ニ曰ク

今余カ茲ニ演説スル畫策ノ要領ハ我カ國債ノ抵當ヲ地税ニ向ケ該税ノ額ニ比スレハ更ニ許多ナル國債ヲ購買シ以テ

諌債ノ巨額ヲ消除スルニ在リ然リ而シテ此地税ヤ現今ト同一ノ法則ニ從テ之ヲ賦課シ諌税ヲ以テ購入スヘキ國債ノ額ハ五分ノ一ヲ超乗スルカ故ニ全國人民ニ向テハ忽チ巨大ノ金利ヲ與ヘ又之ヲ賠償スルノ人ニ向テハ均シク益スル所ナキニ非サルヘシ之ヲ要スルニ此畫策ニ因テハ從来全國人民カ經歴シタル多少ノ不便ニ比スレハ更ニ一層ノ重擔タル國債ヲ償却セントスルニ外ナラス

今ヤ地税ノ收入額ヲ算スルニ概子二百万磅ニ下ラス此額ハ百餘年間議院ノ決議ヲ經テ毎年之ヲ收入シ各區比シク分擔スル所ニシテ其率タル曾テ一磅ニ付四司令ニ超過セス然ラハ則チ此額ハ容易ニ之ヲ減却ス可ラサル者タルヤ必セリ況シヤ一方ニ向テハ更ニ一層ノ重擔アリテ全國ノ人民ヲ困弊セシムルモ猶ホタ之ヲ除クニ至ラサルニ於テヲヤ今夫レ現今ノ地税法ハ如斯ノ情狀ナリト假定シテ更ニ一歩ヲ進メテ我カ國債ノ幾許ヲ地税抵當ニ変スルノ便且利ナルヲ証シテ試ニ一年ノ收入額ニ額ニ就テ論セハ現今ノ地税二百万磅ヲ以テハ國債ノ額二百四十万磅ヲ償却スルヲ得ヘクシテ全國ノ人民ハ則チ四十万磅ノ利益ヲ享有スルニ非スヤ當ニ全國ノ人民ハ四十万磅ノ利益ヲ享有スルノミナラス又國債講入ヲ規約トシテ定ムル所ノ者ハ地主ヲシテ之ヲ賠償セント欲スルノ心情ヲ喚呼ヒシムルニ足ルヘキノ益アリトス故ニ若シ果シテ此策ヲシテ行ハレシメハ八百万磅ノ國債ハ之ヲ金融場ヨリ除去スルヲ得ヘク而シテ一方ニ於テハ人民ヲ國債ノ重擔ヨリ救濟シ又一方ニ於テハ政府ノ信任ヲ増益スルニ至ルヘキナリト云云

蓋シ氏カ國債償却ニ就テ與ヘント欲スル所ハ三分利付ノ公債

証書ニシテ地税ノ十分一ヲ超過スル金額ヲ現ハス者タク然ル
ニ當時公債証書百磅ノ市價ハ五十磅内外ニ位シテ六分ノ利子
ヲ生シ十六年若クハ十七年ノ購價ヲ有スルヨリ故ニ地税ハ則チ
二十年ノ購價ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ賠償スルヲ得サル可
シ如斯ナルカ故ニ氏ハ二十年ノ購價ヲ以テ就ク賠償セシムル
ニ足ル乎否ノ問題ニ就テハ自ラ謂ヘラク夫土地ハ通常二十八
年ヨリ三十年ニ至ルマテノ購價ヲ以テシ資産ハ十六年ヨリ十
七年ニ至ルマテノ購價ヲ以テ之ヲ賣買ス今ヤ國債ヲ地税ノ抵
當ニ交換シテ二十年ノ購價ヲ與ヘントス然リ而シテ原来土地
ハ土地抵當ト其性質ヲ同セスト雖モ今與ヘントスル所ノ購
價タルヤ既ニ斯ノ如シ而ルヲ況ンヤ此約束ヲ以テ公債証書ヲ
交換セハ全國人民ニ在テハ地税ノ五分一即チ四十万磅ノ利益
ヲ享有スルニ於テナヤト云云

然ルニ同氏ノ畫策ハ到底其績ヲ生スルニ至ラス故ニ千七百九
十八年及ヒ千七百九十九年ノ両年間ニ賠償セル者ハ四十三万
五千八百八十五磅ニシテ其翌年ニ至テハ僅ニ四万〇四百十八
磅トナリ遂ニ今日ニ至ルマテ其全額ハ漸ク八十万〇〇三百九
十七磅ニ過キサルナリ憶ニ氏ノ畫策ノ當時ニ行ハレサリシ所
以ノ者ハ還ニ公債証書ノ市價ノ騰貴（千八百年ニ於テ公債証書ノ平均ナリキ）スルニ依ルヘシト雖モ
市價ハ六十三磅八分六ノ平均ナリキ抑又氏カ二十年ノ購賣ハ以テ買收人ノ利益タル尠少ナラスト
自信セル地税ノ購賣ニ於テ特殊ノ狀勢アリテ之ヲシテ然ラシ
ムルニアラサルヲ得ンヤ
將タ地税賠償ニ関スル法令ハ姑ク之ヲ附録ニ譲リ爰ニ掲載セ
サル可ラサルノ一事アリ夫ノ購價ノ約束ハ千八百五十三年ニ
至ルマテ依然トシテ之ヲ履行セリト雖モ此年ニ至テハ一割七

分五厘ヲ減却セシカ蓋シ公債証書ノ平均市價九十五磅八分七二在ル時ニ於テスラ地税ハ二十九年未滿ノ購價ヲ以テハ之ヲ賠償スルヲ得サルニ之ニ加フルニ如斯ノ減價ヲ以テセハ誰カ資金ヲ出シテ之ヲ買收スル者アランヤ然リ而シテ今ヤ公債証書ノ市價ハ九十二磅ヨリ九十三磅ノ間ニ在テ地税一磅ニハ呼價二十八磅四邊尼四分三ノ公債証書ヲ得ヘシ然ルニ前既ニ説明スルカ如ク彪士氏ハ當時ニ於テ呼價二十磅ハ即チ最昂ノ價格ナリトセシハ豈ニ怪ムヘキニ非スヤ

今ヤ一歩ヲ退テ地税ノ部ニ到ランニ抑々彪士氏ノ畫策ハ特リ地税ノ賠償ニ止リシカ故ニ地税ヲ永遠ニ賦課スルノ法令ヲ制定セシ時ニ於テ各區ノ委員ヲシテ地税ヲ課スルニハ必ス動産及ヒ俸給ノ税ト區分シテ之ヲ混同スルヲ得サラシメタリ蓋シ動産及ヒ俸給ノ税ハ千八百三十三年ニ至ルマテ毎年議院ニ於テ之ヲ議定施行セシカ通常麥芽砂糖及ヒ烟草ノ税ト同時ニ議定ス此年第三月ニ於テ常例ノ如ク議定布告スルノ後第五月ニ至テ動産税ニ関スル法令ノミヲ廢止シ俸給及ヒ賑恤金ノ税ハ猶ホ毎年議定セリト雖モ遂ニ千八百三十九年ヲ以テ之ヲ永遠ニ課スルニ至レリ

将ソ俸給税ニ関シテハ或ハ他ノ税ト混淆スルアランヲ恐レテ之ヲ詳説スルヲ得サリシカ抑々俸給税ハ動産税ノ種類ニシテ載セテ法令中ニ在リト雖モ久シク衰減ノ状ヲ呈シ或ル時ニ於テハ漸ク税名ノミヲ存シ現ニ千八百六十八年ノ收入額ハ僅ニ八百二十二磅十一司令十一邊尼ニ過キサリキ

勤務上ノ地税實ハ勤務上ニ課スル所ノ税ニシテ當時此ノ如キ異名ヲ下セリ ハ彼ノ地税ト共ニ課スル所ノ一磅ニ付六邊尼ノ税及ヒ一司令ノ税ニ同カラス蓋シ此六邊尼ノ税ハ千七百二十

年ニ於テ曾テ課税シタル或ル賑恤金ト國王ヨリ命スル諸官吏
海陸軍ノ士官ヲ除クノ俸給トニ課シ又一司令ノ税ハ千七百五
十七年ニ於テ諸官吏海陸軍ノ士官ヲ除クノ俸給一箇年ノ額百
磅ニ超過スル者ニ課スル所ノ者即チ是ナリ而シテ此両税ニ関
スル諸法令ハ千八百八年ニ於テ之ヲ纂輯シ千八百九年ヲ以テ
之ヲ改正セリ然ルニ此改正ニ依テハ諒税ヨリ免除スル所ノモ
ノ甚タ多ク且内閣若クハ大蔵卿ノ命令或ハ支給ノ俸給ハ之ヲ
減却スルヲ得ス等ノ特命アルニ於テハ此両税及ヒ地税ヲ免除
スヘシトノ一款ヲ載セタリ然リ而シテ政府ノ歳入ヨリ支給ス
ル俸給及ヒ賑恤金ノ税ハ大蔵省ニ於テ之ヲ引去ルヲ以テ敢テ
地方委員ノ豫知スル所ニ非ス
斯ノ如クシテ漸次ニ政府ノ歳入ヨリ支給スル俸給及ヒ賑恤金
ハ議院ノ法令ヲ以テスルト否トヲ問ハス諸税ヲ免除シ或ハ俸
給ヲ減額スルヲ得ス等ノ條款ニ依テ悉ク六邊尼税一司令税及
ヒ地税ヲ逃ルヽニ至リシタ故ニ遂ニ千八百二十五年ノ法令ヲ
以テ諒税ハ千七百九十八年ニ議定セル職務ニ限リ之ヲ課スヘ
キヲ布告セリ
今ヤ諒税ニ就テ多辨ヲ費スハ更ニ益スル所ナカルヘシ故ニ若
シ他日之ヲ要スルノ事アリテ左ノ表ヲ参観セハ尚ホ今日ニ於
テ諒税ヲ課スル所ノ勤務税ノ沿革如何ヲ諒知スルニ足ルヘキ
ナリ

千八百六十八年間勤務及ヒ賑恤金ニ賦課シタル地税額

州名	區名	課税額 磅 司令
ボックス	アイレスボリー	六〇〇、〇〇〇

チエスタル	ブロックストン	二〇一、〇八	
	チエスタル府	九〇一、〇八	
デヤシ	エキセトル府	四〇一三、〇〇	
	チウエルトン	四〇〇、〇〇	
トルセットブリッド、ポルト		三一二、〇〇	
ドルハム	イージングトン、ワルド	五八一五、〇四	
ヘヤフヨルド	ヘヤフヨルド府	二八〇三、〇八	
ケンド	北アイインスナルド	一〇〇八、〇〇	
	カンテルブリー	二八〇〇、〇〇	
リンコルン	リンコルン府	五四〇六、〇〇	
	倫敦府	一五三〇一、〇八	
ミッドルセッキス	フインスブリー	五〇〇〇、〇〇	
	タワーハムレッツ	一〇〇、〇〇	

ノーフヨルク	ルビンハム	四〇〇、〇〇	
	ウッテ府	四四〇八、〇〇	
ノーザンプトン	ノーザンプトン	一七〇八、〇四	
	ブリストル府	一一〇八、一〇	
ソメルセット	ソメルトン	〇一八、〇八	
	ウエルス、フチリユム	二四一二、〇四	
サウサンプトン	フヨーレイ	五八一七、〇六	
	ウインチエスタル	二三〇九、〇九	
スタッフフルト	南オワフロー	六四一六、〇〇	
ソッフヨーク	ブクーゼント、ヨドモレッド	一五〇八、〇〇	
ソスセッキス	オッバー、チチエスタル	一八〇〇、〇〇	
ウイルツ	ニエーサラム	二三〇〇、〇〇	
ヨーク	ヨーク府	四九一三、〇〇	

ターナボン	ターナボン	一一九、〇五
グラモルガン	キッボル	一三〇一、〇九
通計		八二二 一一、一一

千八百六十八年間一司令及ト六邊化稅ノ課稅額

磅 司令

ミッドルセッキス	ダウチー、オフ、ランカストル	一九一六、〇〇
上院		二一七 一〇、〇〇
通計		二三七 〇六、〇〇

業既ニ此地稅表ニ就テ充分ニ解得シタランニハ茲ニ一歩ヲ轉シテ千七百九十八年廃土氏ノ畫策ニ由リ千六百九十二年ノ課稅法ヲ連續スルカ為メニ殊ニ千七百九十八年已降各區ノ地價昂低シテ甚シキ課稅ノ差異ヲ生シタルノ實証ヲ示サヽル可ス

試ニ左ニ掲クル所ノ表即チ千七百九十八年ノ所有地稅ノ額ヲ以テ千八百六十七年ニ比較シタル計表ヲ見ヨ千七百九十八年ニ於テ「ケン」州ノ富饒ナルハ「ランカストル」州ニ四倍スルモ今日ニ至テハ「ランカストル」州ニ比較スルニ十一分ノ四ニ過キス又「ヘルトフォルド」州ノ地價ハ往時「ランカスト」州ニ二倍ナリシカ今「ランカスト」州ハ「ヘルトフォルド」州ニ十一倍スルニ至レリ

州名	千七百九十八年惹尔日三世ノ時ニ於テ各州ニ賦シタル地稅額 磅	千八百三年 イ ノ科目ニ於ケル課稅額 磅	千八百六十七年土地建家及ト借地ニ課シタル稅額 磅
ベットフォルド	二八、五五四	二四四、二〇〇	七七四、一〇三
ベルクス	四〇、八四四	四七一、〇五八	一、一八〇、四三四
ボックス	四七、一四二	五一二、三三六	一、〇八九、一七七
チエストル	二八、五九八	七七一、五四六	二、六〇一、九九四

デチン	八二、五八三	一、二二一、四四五	三、〇五三、九七九
ドルハム	一〇、五九七	五二六、九五九	一、八九一、三九三
エスセッキス	八九、三九八	一、〇一一、五四二	二、六五五、二七九
グローストル	四七、三一二	九二七、一三一	二、五四三、七四八
ヘルトフォルト	四二、二八二	三九九、八一五	一、一一四、〇七三
ケント	八二、五五三	一、〇七四、五五三	四、六一五、〇八〇
ランカストル	二〇、九八九	一、八九三、七四七	一一、六八七、六八五
リンコルン	七一、九〇七	一、二五三、五二八	三、五八四、三三二
ノーフォーク	八四、三〇六	一、〇八六、八六四	二、七九三、一四二
ノーサンプトン	四七、六六九	六、八三七、七五四	一、五六九、七四三
サロプ	二九、〇五七	七一二、四三八	一、五六六、二九八
ソルレイ	六六、一三三	一、〇六二、三七五	五、二七三、九一二
ソッフォーク	七三、五〇六	七九四、〇七九	二、〇五一、八三九

ワルウイック	三九、七八九	七三〇、二五七	三、〇五三、八四六
ウイルツ	五二、六五七	七七八、七五〇	一、六四〇、三九四
ウーストル	三三、五八二	五八三、三九七	一、六八六、五九三
ヨーク	九一、四九四	三、一一五、一四八	一〇、八二四、〇三三

又外内ノ各區ニ於テハ從来一定スル地價ノ平均ヲ失フヤ更ニ甚シク譬ヘハ甲區ニ於テ地税ヲ分賦スルニ其額ノ僅々タル實ニ之ヲ細分スルニ足ラサルノ状アルモ乙區ニ至テハ然ラス却テ四司令ノ税額ヲ課スルニ至ル今茲ニ共一例ヲ掲ケンニ千八百五十三年リバポールニ於テ尚ホ未タ賠償ニ附セサル地税ハ九十五磅九司令二邊尼半トス然ルニ此年ニ在テ一磅ニ付一邊尼ノ四分一ノ割ヲ以テ收入シタル税額ハ大約千四百五十磅ヲ生セリ是蓋十五年間ニ於ケル地税ノ分額ヲ拂フニ餘アル者ニ非ス

ヤ

各區ノ地價ニ比例シテ地税ヲ分賦センカ為メニ分賦ノ額ヲ改正セントヲ主張スル者アリト雖ども既ニ千八百五十三年上等裁判所ノ裁斷ニ因リ各區ノ分賦額ハ古来ヨリ一定セシモノニシテ之ヲ変更ス可ラサルヿヲ判決セシ以上ハ此改正ハ亦タ今日ニ冀望ス可ラサルナリ

今夫政府ノ地位ヨリ論スレハ政府ノ地税ニ於ケルヤ恰モ地主ノ地代ニ於ケルカ如シ故ニ各區ハ其地代ヲ納ムルモノニシテ本寮ノ職務タル唯各區カ適當ノ額ヲ納ムル乎ニ注意シ其之ヲ納ムルノ方法ニ至テハ敢テ本寮ノ豫知スル所ニアラス否理ニ於テ然ルヲ得サルナリ蓋シ所得税及ヒ雑税ニ関シテ本寮ハ課税ノ事ヲ監視スルカ如キ直接ノ関係ヲ有セリト雖ども地税ニ至テハ然ラス古来ヨリ一定セル分額ヲ除クノ外ハ曾テ一遷尼タモ大蔵省ニ過納セシヿアラサルナリ然リ而シテ各區ノ地税ニ於ケル過ル七十年間ハ之ヲ所有物上ノ定額税ト看做シテ所有物ヲ賣買スル者甚タ多シ

地税ノ剰餘額

各區ノ地税委員カ地税ヲ課スルヤ往々其分額ニ超過スル者ヲ收メテ之ヲ各自ノ使用ニ供スルノ弊害アルヲ以テ議院ニ於テハ委員ノ課税權内ニ干與シテ其弊害ヲ一掃セサル可ラサルニ至レリ抑々此弊害ノ源因ヲ繹ヌルニ大蔵省ニ收スヘキ税額ハ之ヲ均分スルニ當リ分毫ノ差違ナキヲ保シ難ケレハ委員ニ於テハ僅々ノ剰餘額ノ以テ納税者ニ返付スルニ足ラサル者ハ之ヲ收税吏ニ分與シテ其労ニ酬ルハ固ヨリ自然ノ理ニシテ深ク咎ムルニ足ラスト雖ども其月ヲ閲シ年ヲ重ヌルノ久シキニ及ンテハ自ラ巨額ト成リ現ニ或ヘル區内ニ於テ納税者ハ真ノ地税トシテ之ヲ地税賠償額ノ一部ニ算入セリ然リ而シテ凡地税ノ事タル全ク區内ノ管理ニ属スルヲ以テ本寮ニ於テ

ハ之ヲ詳悉スルヲ得スト雖モ曾テ聞ク所ニ據レハ地税賠償額トシテ至當ノ分額ニ比スレハ四五割ノ過額ヲ收納セシ者甚タ多シト云フ如斯ナルカ故ニ千八百二十六年ニ於テハ此弊害ヲ矯正セントト欲シ現在若クハ將来ノ過納税金ハ總テ之ヲ他日ノ納税額ニ算入スヘキノ法ヲ設ケタリ然ルニ地方委員及ヒ書記ニ於テハ此法令ヲ等閑視スルト又納税者ニ於テハ課税額ノ精算書ヲ得ルノ難キニ依テ到底之ヲ實踐セシムルヲ得サリシカ故ニ更ニ地税收納票ノ圖式ヲ改正シテ政府ニ收納スヘキ分額ノ外猶收納シタル過額アラハ明カニ之ヲ知ルノ法ヲ設ケタリト雖モ五磅以下ノ過額ニ至テハホタ收税吏ヲシテ之ヲ清算セシムルノ域ニ至ラサリシナリ

又千八百六十一年ノ法令ヲ以テ各小區ニ於ケル地税ノ剩餘金ハ總テ地税賠償額ニ算入セシカ為メニ本寮ノ納金官ニ納付スヘキヲ令セリト雖モ其剩餘金ヲ以テ收税吏ノ労ニ酬フルハ猶ホ依然トシテ委員ノ權内ニ在リ然リ而シテ法令ニ據リ地税ノ剩餘金ヲ以テ賠償シタルノ額ハ左ニ掲示スル所ノ如シ

千八百六十二年		三一三	磅
千八百六十三年		九二五	
千八百六十四年		二四八	
千八百六十五年		六三五	
千八百六十六年		四〇一	
千八百六十七年		三一一	
千八百六十八年		四〇三	
千八百六十九年		四三〇	
千八百六十二年ヨリ六十九年ニ至ル	蘇格蘭	三五	
通計		三、六九九	磅

地税賠償ノ方法

地税ノ賠償ヲ欲スル者ハ本區地税委員ノ書記ニ賠償金額証票ヲ出シ且公債証書ヲ以テスル乎將タ現金ヲ以テスル乎或ハ如斯スルニ於テハ一次ニ之ヲ賠償スル乎將タ二年若クハ十六年間ニ分償スル乎ヲ陳述ス故ニ書記ハ誓書ヲ出シテ其目前ニ於テ名印セシメ証票ヲ併セテ之ヲ本寮ニ送致ス於是乎本寮ニ於テハ其事由ヲ約定書ニ登記シ本寮委員二名之ニ調印シテ約定ノ証ト為シ而シテ後チ何ノ地何ノ時ニ於テ賠償金額ヲ收納スヘキヲ本人ニ報知ス蓋シ現金ヲ以テ賠償セントヲ要スルノ場合ニ於テハ約定書ヲ納金官ニ送リ納金官ハ現金ヲ收領シテ其旨ヲ約定書面ニ記シ之ヲ本寮ニ廻送ス故ニ本寮ニ於テハ帳簿ニ記録シ且約定書ニ記録ノ月日并ニ地税免除ノ期日ヲ批文シテ之ヲ本人ニ送付ス

若シ公債証書ヲ以テ地税ヲ賠償セント欲スルトキハ其本人ハ本寮ヨリ約定書ヲ得テ之ヲ英國銀行ニ致シ國債委員ニ其全額若クハ分償額ヲ納付スレハ該銀行ノ掌金役ハ其旨ヲ約定書ニ批文而シテ其約定書ハ後必ス之ヲ本寮ニ致シテ記録セサル可ラス且本寮ニ於テハ地税賠償ノ現金ヲ以テ公債証書ノ購入ニ供センカ為メニ一週日毎ニ納金官ノ既ニ收入シテ銀行ニ付托スル現在ノ額ヲ國債消却委員ニ報告ス

地税賠償ノ後各區ノ課税ヲ免除スル事

本寮地税主簿ニ於テ約定書ヲ記録スルヤ直ニ地税賠償ノ事由ト地税免除ノ期日トヲ本區地税委員ノ書記ニ報告シ且年末ニ在テハ本年間各區内ニ於テ賠償シタル地税ノ全額及ヒ為メニ免除シタル分額ノ比例ヲ示ス所ノ計表ヲ各區ノ書記ニ送付ス

○

今ヤ地税ノ未タ賠償セサル者ハ百十一万千三百六十六磅ナリ

トス蓋シ彪士氏ノ規約ニ從ヒ二十年ノ購價ヲ以テ一次ニ其全額ヲ賠償セシメハ毎年ノ損額當時公債証書ノ市價ハ九十二磅トス ハ三十八万六千五百六十三磅ナル可シト雖モ千八百五十三年ノ約束ニ從ヘハ其損額ハ十万二千八百〇二磅ニ過キサルナリ

雜稅

昨年議院ノ法令ヲ以テ英倫ニ於テハ千八六十九年第四月五日蘇格蘭ニ於テハ同年第五月二十四日ヨリ僕稅馬車稅馬稅粉髮稅徽号稅及ヒ馬商稅ヲ廢止セリ故ニ今ヤ雜稅科目中ニ存在スルモノハ特リ家屋稅アルノミ

雜稅ノ科目中ニ於テ或ル稅ハ夙ニ千六百九十六年ノ施行ニ係ルト雖モ千八百三年ヨリ現今ニ至ルマテ該稅ヲ收納スルノ方法ハ惹尔日三世ノ治世ニ制定シ尋テ改正ヲ加ヘタル法令ニ基ク者ナリ

千八百三年ニ於テ雜稅科目中ニ列スル稅項ハ左ニ揭クル所ノ如シ

第一牖窓稅
第二馬稅
第三家稅
第四養犬稅
第五僕稅
第六粉髮稅
第七馬車稅
第八徽号稅
第九馬商稅

曾テ印稅ニ屬スル狩猟免許稅ハ千八百八年ニ於テ之ヲ雜稅科目中ニ編入シ千八百六十年ニ至テ國産稅ニ編入シタリ

家稅

家稅ハ牖窓稅ト共ニ千六百九十六年ニ於テ始メテ之ヲ賦課シ

千八百三十四年第四月ニ至ルノ間ハ該税ノ率ニ数種ノ別アリテ遂ニ此年ヲ以テ廢止セリ

千八百三年以降ハ惹尔日三世ノ法令ニ準據シテ之ヲ課シ又千八百八年以降ハ左ノ税率ニ従テ之ヲ課セリ

一年ノ借料五磅以上二十磅未満ノ家屋　一磅ニ付一司令六邊尼

一年ノ借料二十磅ヨリ四十磅未満ノ家屋　一磅ニ付二司令三邊尼

一年ノ借料二十磅以上ノ家屋　一磅ニ付二司令十邊尼

千八百五十一年ニ於テハ牖窓税ヲ廢止シ之ニ代ルニ家税ヲ以テセリト雖ども唯一年ノ借料二十磅以上ノ家屋ニ限レリ而シテ左ニ掲クル所ノ家税ノ率ハ今日ニ至ルマテ施行スル者ナリ

一年間二十磅以上ノ價格ヲ有シ一般ノ商人或麦酒、々精、葡萄酒及ヒ他ノ飲料ノ小賣免狀ヲ有スル者若クハ農民ノ住居スル家屋　一磅ニ付六邊尼

總テ此他ノ人ノ住居スル家屋　一磅ニ付九邊尼

斯ノ如ク牖窓税ニ代ルニ家税ヲ以テスルカ為メニ人民ニ於テハ概子百万磅ノ課税ヲ免タリ蓋シ千八百五十一年已降ハ曾テ家税ノ率ヲ昂低増減スル無ク又課税スヘキ家屋ノ種類ニ変更アル無シ然リ而シテ大貌列顛國ニ於ケル收税額ハ五割餘ヲ増加シ即チ七十二万七千磅ヨリ増シテ百十万磅餘ニ至ル所以ノ者ハ幾分カ其價直ノ騰貴スルニ因ルヘシト雖ども抑々又遷ニ家類ノ増加スルニ依ラスンハアラサルナリ

僕税

僕税ハ千七百七十七年ニ於テ始メテ之ヲ賦課シ千七百八十五年ヨリ千七百九十一年ニ至ルノ間ニ在テハ婢税ヲ課セサルニ非スト雖モ千七百九十二年ニ於テ全ク之ヲ廃止セリ千七百八十五年ヨリ千八百五十四年第四月ニ至ルノ間ニ於テハ獨身未娶者ニシテ僕ヲ使役スル者ニハ僕税ヲ課スル丁他人ヨリ亘ク且使役ノ僕一名ヨリ十一名及ヒ十一名以上ニ區別シテ其之ヲ使役スル愈々多キニ従テ益々其税率ヲ増重セリ

千八百五十三年雑税改正ノ時ニ於テハ満十八年以上ノ僕ニハ各々一磅一司令ヲ課シ十年未満ノ者ニハ十司令六邉尼ヲ課シ且十司令六邉尼ノ税ヲ園丁及ヒ獵獸看守人ノ僕ニ課セシク従来園丁及ヒ獵獸看守人ト使役ノ僕トノ間ニ區域ノ判然ナラサル園丁及ヒ獵獸看守人ハ躬ラ收納スル所ノ一磅一司令ノ税ハ之ヲ其従僕ニ及ホス者ニ非スト想像セシク故ニ今新タニ其區域ヲ明クニシテ更ニ之ヲ課シタレハ此等ノ従僕トシテ課税セラルヽ者甚タ多キニ至レリ然ルニ今又園丁及ヒ獵獸看守人ト園庭ニ在テ使役ニ供シ或ハ獵獸ノ看護ヲ助クル者トハ如何シテ之ヲ區別スヘキ乎ハ當時ノ問題ト成リ殊ニ園丁ト其従僕トノ間ヲ區分スルニ於テ甚タ至難ナルヲ覚ヘタリ依テ本寮ニ於テハ更ニ其區畫ヲシテ一層判然ナラシメンク為メニ近頃回文ヲ草シテ之ヲ撿査官ニ送レリ其文ニ曰

免許ヲ得タル園丁ニ属シテ庭園ヲ穿堀掃除シ或ハ他ノ賤役ニ供スル尋常ノ労働者ニシテ其地近傍ノ農家ニ使役スル者ト同額ノ賃金ヲ受クル者ハ別ニ免許状ヲ領セシムルヲ要セス

獵獸看守人ニ属シテ夜番ヲ為シ然モ獵獸看守人或ハ其従僕

ノ本業ヲ助ケサル者ハ別ニ免許状ヲ領セシムルヲ要セス
従来ノ雑税ニ代ヘテ施行スル國産免許税ノ新法ニ據レハ僕税
ハ年ノ老若ヲ問ハス一般ニ十五司令ヲ課ス

馬車税

馬車税ハ千七百四十七年ヲ以テ創設シ其多少ノ改正ヲ經テ近
今ニ至ルマテ之ヲ施行セリ
一人ニシテ二輛ヨリ九輛マテノ馬車ヲ所有シ一輛ヲ加フル毎
ニ愈々其税率ヲ増重セシメ以テ一輛ノ税率ニ區別スル法ハ千
八百五十三年ニ於テ之ヲ廢止シ従前免税シタル低輪ノ馬車ハ
同製作ノ尋常馬車ニ課スル税ノ半額ヲ收メ又一種別様ノ製作
ニシテ二十一磅以下ノ價直ヲ有シ且外部ニ持主ノ姓名及ヒ商
標ヲ記スル二輪馬車ハ従来免税ナリト雖モ其之ヲ免税スル所
以ノ旨趣ニ悖ル者アルヲ以テ之ヲ廢止セリ

千八百五十三年ヨリ千八百六十九年ニ至ルノ間ニ於ケル馬車
税ハ左ニ掲クル所ノ如シ

馬二頭以上ヲ以テ曳ク四輪車　三磅十司令

馬一頭ヲ以テ曳ク四輪車　二磅

車輪ノ直径各々三十インチ「一インチハ九分ニ当ル」ニ超ヘス十三インチ「一インチハ九分ニ当ル」以下ノ小馬二頭以上ヲ以テ曳ク四輪車　一磅十五司令

同小馬一頭ヲ以テ曳ク四輪車　一磅

同馬若クハ小馬二頭以上ヲ以テ曳ク四輪以下ノ車　二磅

同小馬一頭ヲ以テ曳ク四輪以下ノ車　十五司令

同十三円ン止以下ノ小馬一頭ヲ以テ曳ク二輪以下ノ車　十司令

前ニ記スル所ノ馬車ノ馬ヲ附屬セスシテ賃傭スル者　各税ノ半額

尋常役夫ノ使用スル四輪車　二磅六司令八邊尼

尋常役夫ノ使用スル四輪以下ノ車　一磅六司令八邊尼

千八百四十五年ノ改正ノ時ニ於テ施行スル馬車税ニ依テ千八百五十三年間ニ收入シタル全額ハ三十九万九千六百五十一磅ナリシカ千八百五十五年ノ減税ニ由テ其額ハ二十八万三千九百六十四磅ニ減シ又千八百六十八年ニ至ル十三年間ニ在テハ三十八万九千九百十二磅ニ增加セルカ故ニ千八百五十四年ノ減税ニ依テ生シタル減額ハ殆ント之ヲ償フヲ得タリ

國産免許税法ニ據レハ馬車税ノ率ハ左ニ掲示スル所ノ如シ

車量四「ポンドルト、ウエイト」我カ十三貫六百十九匁ニ當ル以上ノ四輪若クハ四輪以上ノ車　二磅二司令

車量四「ポンドルト、ウエイト」以下ノ四輪若クハ四輪以下ノ車　十五司令

馬税

馬税ハ千七百八十四年ヲ以テ始メテ之ヲ施行シ當時鞍馬及ト車馬等ニハ各々十司令ヲ課シ競馬用ノ馬ニハ二磅二司令ヲ課セリ蓋シ千八百五十三年ニ於テ左ノ税額ヲ制定施行スルノ前

ニ在テハ屢々改正ヲ經遂ニ此年ヲ以テ增率稅法ヲ廢止シタリ

競馬用ノ馬　三磅十七司令

課稅スヘキ馬車ヲ曳キ或ハ乘用ニ供スル十三閇ンヒ以上ノ

馬及ヒ騾馬　一磅一司令

此他ノ馬及ヒ騾馬　十司令

農夫郡宰新奮教ノ僧官醫師尋常役夫等ノ所有スル馬

十司令六邉尼

課稅スヘキ馬車ヲ曳キ或ハ乘用ニ供スル十三閇ンヒ以下ノ

馬及ヒ騾馬　十司令六邉尼

此他使用ニ供スル馬及ヒ騾馬　五司令三邉尼

千八百五十三年ニ於テ馬稅ノ收入額ハ三十六万六千四百八十七磅ニシテ千八百五十五年ニ於テハ三十四万千零三十磅ナルカ故ニ其差二万五千餘ハ全ク減稅ノ然ラシムル者ナリ

競馬用ノ馬稅ハ千八百十七年ヲ以テ之ヲ國産稅科目中ニ編入ヒリ蓋シ千八百六十八年ノ馬稅（當時ニ於テハ尚ホ雜稅科目中ニ在リ）收入額ハ四十三万四千五百七十四磅ナルカ故ニ之ヲ千八百五十三年ニ於テ競馬用ノ馬ニ課スル稅ヲ併算シテ比較スルモ猶ホ六万九千零八十七磅ノ增額ヲ生ス

國産免許稅法ニ據レハ馬及ヒ騾馬ノ稅ハ各々十司令六邉尼ヲクトス

犬稅

犬稅ハ千七百九十六年ニ於テ始メテ之ヲ課シ獵犬及ヒ其他ノ犬并ニ群獵犬ノ三種ニ區別シテ各々其率ヲ異ニヒリ

千八百五十三年雜稅改正前ニ在テハ「グレイホンド」（獵犬ノ名眼鋭ク形美ニシテ足極メテ疾シ）ニハ一磅二司令「ホーンド」「ポインド」「ル」（獵犬ノ名）ニハ十五司令四邉尼及ヒ其他ノ犬ニハ八司令六邉尼「ホーンド」ノ一群ニハ

三十六磅ヲ課セシカ千八百五十三年ニ於テハ左ノ如クニ改正セリ

各種ノ犬

一頭ニ付　十二司令

六十六頭以上ヲ以テ群ヲ為スホーンド犬

一群ニ付　三十九磅十二司令

十五頭以上ヲ以テ群ヲ為スグレイホンド犬

一群ニ付　九磅

従来雑税委員ハ養犬者ノ貧窶ナル故ヲ以テ課税ヲ免スルヲ得ヘキノ權ヲ有セシカ千八百五十三年ニ於テ之ヲ廢止シ唯々牛羊家畜ノ看守或ハ其驅逐ニ使用スル犬ノミニ限レリ然リ而シテ千八百五十三年ノ收税額ハ十六万千九百十一磅ナリシニ千八百六十六年ニ至テハ二十六万七千百七十四磅ニ増加シタリ

千八百六十七年第四月ノ法令ヲ以テ千八百六十七年第四月五日ニ終ル年度間ニ飼養スル犬ノ雑税ヲハ七司令ニ減シテ更ニ國産免許税五司令ヲ課シ同年第十二月三十一日ヲ以テ免許ノ期限ヲ終ルカ故ニ千八百六十七年第四月五日後ニ於テ飼養スル犬ニハ十二司令ノ税ヲ課スル猶小從前ニ異ナル所ナク而シテ牛羊家畜等ノ看守驅逐ニ供スル者ニハ總テ課税ヲ免セリ

粉髪税

粉髪税ハ千七百九十五年始メテ一年一磅一司令ノ割合ヲ以テ之ヲ課シ千八百十八年ニ至テハ一磅三司令六邉尼ニ増加セシカ課税以来全收額ノ多キハ千七百九十六年ニ於テ二十一万零百三十六磅ニ至リシヲ以テ最ト為ス然ルニ其後ニ至テ該税ヲ納ムル者ハ一年ハ一年ヨリ減少シ遂ニ千八百六十七年ニ於テハ僅ニ八百四十七名ノ納税人アリテ其全收額ハ千磅ニ過キサル

カ故ニ更ニ國産免許税ヲ課シテ千八百七十年第四月五日ヨリ諫税ヲ廢止スキノ法令ニ代ルノ良策タルヲ見ス

徽號税

徽号税ハ千七百九十八年ニ於テ始メテ之ヲ施行シ徽号ヲ用フル者ニシテ馬車税ヲ納ムレハ其之ヲ馬車ニ畫クト否トヲ問ハス毎年二磅二司令ヲ課シ其馬車税ヲ納メス家税牖窓税ノミヲ納ムレハ一磅一司令ヲ課シ又馬車税家税及ヒ牖窓税ヲ併セテ之ヲ納メサレハ唯十司令六邉尼ヲ課セシカ千八百八年ニ至テハ各々二磅八司令一磅四司令十二司令ニ増加シタリ

千八百五十三年雜税改正ノ時ニ於テハ馬車税三磅十司令ヲ納メ馬二頭ヲ以テ曳クヘキ四輪車ヲ有スル者ノ徽号税ヲ二磅十二司令九邉尼トシ其他ハ悉ク十三司令二邉尼ニ改メケレハ為ニ一歳ノ收入額ヲ減スル一万八千磅ニ及ヘリト雖モ此減額ハ他日ノ増額ヲ以テ殆ント之ヲ償フヲ得タリ而シテ今ヤ國産免許税トシテ徽号税ヲ課スルノ割合ハ左ニ掲示スル所ノ如シ

徽号ヲ馬車ニ畫ク時ハ	二磅二司令
其他ノ用ニ供スル時ハ	一磅一司令

馬商税

馬商税ハ千七百八十四年ニ於テ之ヲ施行シ英倫ニ於テ「ロル、オフ、モルタリテ」内ニ住居スル者ハ一年十磅其他ノ場所ニ住居スル者ニハ五磅ヲ課シ蘇格蘭ニ於テモ亦五磅ヲ課シ其後屢々改正シテ遂ニ千八百四十年ニ於テ各々二十七磅十司令十三磅十五司令ニ増加シタリ

千八百六十六年ニ於テ馬商税ヲ納ムル者ハ千二百零四名ニシテ今之ヲ数年前ニ比較スレハ遥ニ其数ヲ増加セリト雖モ然モ

重税ナルカ故ヲ以テ之ヲ免ルヽ者ナシト云フ可ラサルナリ然リ而シテ今ヤ國産免許税トシテ課スル馬商税ハ十二磅十司令ニシテ敢テ英蘇ノ間ニ異ナル所アル無シ